

ヤマハマリンニュース

YAMAHA MARINE NEWS No.96

'94

6・7

月号

■特集/オンシーズン、オーナーを海に引っ張り出せ!

「オーナーが喜ぶ、遊びの提案」



FC-26(KEYLARGO) ●全長 8.29m(ハウスブリット含む) ●全幅 2.50m ●総トン数 5トン未満 ●最大馬力165HP ●搭載エンジン SX-370KS ●定員10名 ●26ft艇だが本格的なディーゼル・インアウトを搭載し、余裕のパワーで安定した走り と広い行動半径を実現。スマートなデザインと機能的なキャビンレイアウトで、フィッシングのみならずファミリーユースにも十分対応できるプロフィールを持つ。



1級免許を取って大型艇に挑戦するのもよいが、手軽に取得できる4級免許で乗れ、ときにはちよつと遠出を楽しみたいというオーナーさんも多いはず。新たに登場したFC-26は、小型艇ながらもパワフルなディーゼル・インアウトを採用。独立したトイレルームを設置するなどキャビンレイアウトも充実しており、サイドウオークなどフィッシング機能を損なうことなく、マルチな遊びに対応できるスマートなデザインでまとめられている。

今回は、5月に進水式を行った同艇を取材し、オーナーさんにお聞きした。

個人オーナーから共同オーナーへ

瀬戸内海から続く山口県の南岸は、小島や入江が点在する恰好のフィッシング・ゲレンデ。小郡市の河村さんと山口市の西原さんは10年来の釣り仲間として、この恵まれた海を大いに楽しませている。

「最初は波頭釣り。これを5年間続けて、磯に2年、そしてポートフィッシングへ入りました」と、河村さん。

着実にステップを踏んできた釣りマニアであることがうかがえる。

ポートフィッシングへ移行したお二人は、最初それぞれ場所の異なるマリナーをベースに選んだ。まず手に入れたポートは、河村さんが20ftのアウトボード仕様。西原さんは、1艇目に17ftのカソリン・インアウト仕様を購入したが、その後25ftのディーゼル・インアウト仕様に移り換えた。

しかし、それぞれ別に購入したものの、釣りのときはいつも一緒だった習慣から、知らずのうちにどちらかのポートに2人で乗るパターンになっていた。

「これならいつそ2人で新しいポートを購入した方がよい」

ポートフィッシングをはじめて3年ほどが過ぎた今年の春、2人は共同オーナーになることで意見が一致した。

中古の大型艇より 小型でも新艇がよい

共同オーナーには意見の相違がつきもの。河村さんは当初、「中古でも大型艇」と思っていたが、西原さんの「小型でも新艇」という案に落ち着いた。これも、FC-26が充実し

●オーナープロフィール

河村貢一さん(45歳) / 右
西原静雄さん(38歳) / 左



シーズンは週に1回は乗るという河村さんは、小郡市在住の会社員、大学生と中学生の2人の息子さんがいるが、もっぱら共同オーナーの西原さんが相棒になっている。北方謙三の大ファンということで、艇名はキークエストが舞台となっている氏の小説から取っている。西原さんは山口市で遊覧業を営む若き社長さん。お二人は3人いるが、また小さいのでポートに乗せるのはこれからだと言っていた。

だが、95馬力と小さく、スピードも20ノットぐらい。FC-26は165馬力のパワーで30ノットは出せます」と満足気だ。デッキデザインがスマートに処理されているにもかかわらず機能を重視していることも、お二人に強い印象を与えたという。「パウデッキに腰掛け、サイドウオークに足を降ろしながら釣りができるように工夫されています。2人のときはいうまでもなく、3〜4人集まってもフィッシング・ポジションに困ることはありません」

また、シンプルだが使い勝手のよいキャビンも大型艇を考えていた河村さんの目には、フィッシングポートといえどもクルーザー的な要素を考慮しているのがよい。独立したトイレルームは、いざ女性ゲストが来て安心です」と加えた。このポートになってから、



This is it!

ディーゼル・
イン/アウト搭載で
遠出を可能に。

小意気なフィッシングボート 〈FC-26〉

(KEYLARGO)のディテールから判断する「FC-26」の実力



CONTENTS

- 特集 4
オンシーズン、オーナーを海に引っぱり出せ/
「オーナーが喜ぶ、遊びの提案」
- 浜を訪ねて 10
長崎県壱岐郡/小金丸造船所
- SERVICE 12
当世サービスマン人物図鑑/ミナトモーター
サービスA・B・C
- YAMAHA NOW 14
イベント、グッズ、他、ヤマハマリン最新情報
- WONDERFUL SEA 17
汚れた海を光でカモフラージュ。
夜光虫って、都会のネオンみたいだ。
- マリンショップ見聞録 18
宮崎県延岡市/共栄マリン(株)

- ①コンパクトながら165PSのハイパワーを生み出す、ヤマハ独自の開発によるSX-370KS /ディーゼル・エンジン&ハイドラドライブユニット。この艇の場合、2,000回転を過ぎるあたりで簡単にブレーキ状態を開始し、最大3,300回転で約32ノットをマークするという。「レバーを押すと、そのまま立ち上がる感じ」というほど初期レスポンスに優れている
- ②進水式のシーンだが、大人5~6人が集まっても余裕のスペースを提供するワイドなデッキ
- ③海水デッキウォッシュ(オプション)は、フィッシングシーンには欠かせない要素だ
- ④ドライバーズシート脇にある2人掛けのベンチシート(オプション)。天候が悪くなっても、大人数人がコックピット内で帰路を過ごせる
- ⑤ギアの位置表示もある、自動車感覚にデザインされた見やすい計器パネル。魚探はヤマハYFV630II(オプション)
- ⑥大型艇並に独立したトイレームを設置。電動式マリントイレ(オプション)はゲストでも簡単に使える
- ⑦ヤマハ独自のアイデアによる折り畳み式のフィッシャーマンズ・アンカー(オプション)は場所を取らない
- ⑧スターン用のウインドラスとアンカーローラー(オプション)。常時2人で乗るだけに省力化に工夫を凝らしている
- ⑨トランサムステップ&ラダー(オプション)は何かと便利。ゲストを招いた海水浴にも威力を発揮する

た内容を持っていったからである。「ターボの効いた頼もしいエンジンが気に入りました」と河村さん。西原さんは、「前のボートもディーゼルでし

日本海側の有名なマグロ漁場も航行可能エリアに入ったとのこと。トルクのあるディーゼル・パワーを駆使して、お二人の行動半径はますますワイドになっていくことであろう。

特集

オン・シーズン、オーナーを海に引っぱり出せ!

オーナーが喜ぶ、「遊び」の提案



いよいよ1994年の夏がやって来る。釣りはもちろん、気持ちイイ海水浴やスノーケリング、ビールがうまいキャンプやバーベキュー……、夏の海にはマリニファンをいても立ってもいられなくする魅力がある。だから、この絶好のシーズンを利用して、今まで以上にお客さまのポートライフを盛り上げてみてはどうだろう。とにかく目一杯遊んでもらう、ちょっと御無沙汰のオーナーを海に引っぱり出す。この夏を機会に年間を通した遊びの提案を考えてみたいもの。そんな作業が来シーズンのご商売に好影響を与えるに違いない。

あなたのお客さまの年間出航日数は?

とにかく遊ぶきっかけを提供してあげたいもの。

販売店さんほどのようにお客さまを遊ばせているのか、今回の特集に当たって、過去に取材させて頂いたお店の事例を振り返ってみたい。その一例を別表に掲げてみたのだが、釣り大会などのイベントに誘い出したり、自ら率先してマリンスプレイを楽しみながらお客さまを誘ったりと、その方法はさまざま。

これまでにあまり「遊ばせる」ことを意識してこなかった方にとっては、そのノウハウが気になるころだろうが、それについては後述するとして、ここでは過去にお話をお聞きしてきたことの中からその効果についてふれてみたい。

「スポーツフィッシングの普及は大型化につながります」というのは宇部マリ

ーナの佐々木部長。同社では山口県見島でのツナフィッシングなど、新たなプレイフィールドを開拓するなどして、お客さまにスポーツフィッシングという遊びを提供してきたが、その結果タックルからFRへ、FRからPCへといった、確実な代替えパターンを生むことに成功した。またそれに伴い用品の売り上げも伸ばしたという。

セーラーズさんでは、どれだけマリナーに人を呼ぶことができるかに力を入れているようだ。年間30種類を超えるイベント開催もさることながら、マリナーを遊園地に見立て、「船に乗らなくても来たくなる、楽しめる」マリナー造りを考えたという。マリナー、ショップに限らず、人が集まればそれだけお客さまと接する機会が増え、商談のチャンスも生まれやすくなる。

「お客さまと一緒に遊んでいる」MJショップのトヨキさん。渡辺社長ご自身がお客さまを誘い出してMJを楽しんでいるという。「何度か誘っているとそのうち友達を連れて来てくれる。そこから新たなビジネスが生まれる」そうだ。何といっても夏はお客さまを海に誘い出す絶好のチャンス、じっくり策をねって、この季節を来シーズンへのステップアップに役立てたいものだ。

■販売店の『遊ばせ上手』例

県名	ジャンル	販売店名	遊びの提案、イベント事例
北海道	MJ	マリンジェット・プロショップ・トヨキ	「グレンテにはとにかく顔を出す、お客さまと一緒に遊んで、自分も楽しむ」ことで、ユーザーの輪も広がる。休眠ユーザーが減り、ヤマハのイベントにも多くのユーザーが毎年参加。
宮城	BF	マリナー仙台	お客さまの中にある「釣りのプロ」からアドバイザーとして協力を得る。そこで企画された釣り大会は「釣れる」と評判。地元の名物、カギを持ち寄ってのクルーズ&バーベキューも好評。
静岡	YA	トヨベツレジャー	毎年5月10日と10月10日に開催される「内浦湾ファミリークルーザーレース」はオーナーの間にすっかり定着。漁協の協力を得るなどの円滑運営が成功の決め手。地元産のみかんや干物を賞品にするなどの工夫もウケている。
大阪	MJ	コナハウス	専用グレンテにハニードランドを設置したところ大好評。自社のモーターボートを持ち込んで、ユーザーと共に幅広い遊びを楽しむ。週末の度にグレンテは賑いを見せる。
岡山	BF	川崎商会	毎年開催して17年の歴史を誇るフィッシングコンテスト。継続することで認知されることはもちろん、運営ノウハウも蓄積される。同社の場合、費用は持ち出し。参加費をいただくと、参加者が熱くなって検量等でもめることもあるようだ。
山口	BF	宇部マリナー	スポーツフィッシングの普及でユーザーを活性化。同社の佐々木部長は釣りが好き。JGFAに加盟し、トーナメントに参加するほか、自ら新たなツナフィッシングの好ポイントを開拓して地元ユーザーに遊びの情報を提供。オリジナルのロッドをオーダー生産してユーザーに提供するなど差別化も図る。
香川	BF YA	セーラーズ	「マリナーは遊園地と同じ」という哲学のもと施設の充実で集客率をアップ。マリナーに人を集めることを目的にイベントを連発。初日の出からクリスマスに至るまで、年間を通して行われるイベントは軽く30を越える。
福岡	BF MJ	ヤマハポート小倉店	情報誌『BOAT HOOK』を独自に発行し、すべてのオーナーに配布。釣り情報やイベント参加記などの情報提供で、お店とオーナーのコミュニケーション作りに役立っているだけでなく、休眠ユーザーの活性化につながる。

マリジェットショップのケースでは

環境の違ったゲレンデへのツアーが人気

兵庫県尼崎市

(有)サーカス
田中一聡社長



兵庫県尼崎市の(有)サーカスさんはこのほど行われた販売店コンクール「チャレンジ・ザ・ゴール」キャンペーンのMJ部門で優秀賞を獲得したMJショップのひとつ。そのサーカスの田中一聡社長に、同社の「遊はせ方」についてお聞きしてみた。

「うちの商売はお客さまからの紹介で新規をつかんでいくというケースを大切にしているので、購入後のアフターサービス、特に楽しんで頂くことには力を入れています。イベントについては3年前から琵琶湖を会場に開催しているレースが人気です」

これは通常のバイを回るレースではなく、島を回って帰ってくる、というロングディスタンスのレース。これならルールも簡単で、

初心者も楽しめる。同社の顧客はレース志向ではないというが、このレースには毎回50艇ものエントリーがあるそうだ。

「ヤマハをはじめ関連会社から協賛を募り、賞品を用意しています。参加費は3000円ですが、参加賞にそれ以上のものを出しています」

レースとともに人気なのがゴールデンウィークなどを利用して行われるツアーである。ツアーといっても海外などに出かけるわけではない。

「淡路島や日本海側に自分たちで車にMJを積んで出かけるんです。土曜日の夜に出かけて車の中で一泊なんてこともあります」

同社の場合、淡路島には艇庫を経営してい

る知人がおり、ゲレンデは確保できる。また日本海に行く時もお客さまが経営している民宿を利用するそうで、問題はない。

今、国内にはPWの乗り入れを制限している水域もあるが、MJショップ同士、情報交換やゲレンデの相互利用などが進めば、これからますます楽しいMJライフをお客さまに提供することができそうだ。

なお、同社ではこうした催事への呼びかけだけでなく、休眠ユーザーを作らないためにもDMと電話を大いに活用。電話については夜の7時から9時までの間、毎日のようにかけている。



50Lbライでのマカジキ94kgは申請していればJGFAの日本記録、という大物

週に一回、オーナーに FAX通信で情報提供

週に一回というハイペースで発行する『北浜マリニューズ』。具体的な釣り情報や、イベントの案内にも活用するほか、冬場のコミュニケーションを絶やさない、という目的もある。

「月一では意味がない。毎週送るから効果があるんです。それとダイレクトメールだと読まずに捨てられてしまうこともあるだろうと、なるべく自宅か勤め先にファクシミリで送るようにしています」

同社の顧客の80%は釣り目的だそうだが、それだけでは飽きられてしまうだろうと提案していることのひとつが松島湾での島内キャンプだ。

「テントを持っていったり、船に泊まったりと一泊くらいしてもらおう」ことで、普段とは違ったポイントライフを過ごすことができるし、家族みんなで楽しんでもらえる。キャンプを提案するだけなら簡単だが、そ

のための情報をお客さまに提供してあげられるところが、同社のセールスポイントといえるだろう。

「キャンプのできる島はどこか、どの港なら安心して停泊できるか、どんな道具を使ったらいいか、などですね。それにこれも釣りと同じで最初は同行しているとお手伝いします」

そして気をつけていることは「地元住民、特に漁業者とのトラブル。中にはゴミを捨てていったり、夜中まで騒いだりとひどい人もいます」そうだが、同社の場合はオーナーに対して十分な指導がされているし、何より元々は地元漁師さんのための造船所だっただけあって、地域の人たちとはコミュニケーションが取れている。「船にうちのステッカーが貼ってあればありがたいところで快く受け入れてくれる」環境作りがなされているのだ。

「昨年は大型艇だけでなく、FC-23など入門者向けの小型艇も良かった」遊ばせてくれる、オーナーを飽きさせないお店「くろしお」は、既存オーナーの代替えだけでなく、新規客も順調に獲得している。

「オーナーが喜ぶ、遊びの提案」

まだまだある「遊ばせ」事例

海の向こうのデイナーラーだつて オーナーに遊んでもらおうと必死だ!

オーナーに遊んでもらい、ビジネスを活性化させる手法は国内マリニだけではない。御存知のようにヤマハでは船外機、マリニジェットを中心とする製品を世界中で展開しているわけだが、そんなネットワークから集めた各地の情報の一部を紹介しよう。

キリバス発

いくら大物でも二種類だけでは勝てないユニークなトーナメント

中部太平洋の赤道直下、日付変更線付近に位置する島国・キリバス共和国。その美しい自然に恵まれた国のあるクラブが主催するフィッシングトーナメントが「キャッチ・シックス(6)」だ。これはカツオ、マグロ、オキサワラなど、クラブが指定した6種類の魚を釣り上げるという競技。つまり、いくら大物のカジキを釣ってもそれ一尾では勝てないというもの。前回では5種類の魚を釣ったオーストラリア在住のヤマハ船外機オーナーが優勝し、ヤマハカップを獲得した。



タヒチ発

これぞ世界最小のスポーツフィッシング・マリニジェットの奥深さを実感

以前ご紹介したので知っている方も多いと思うが、ヤマハのMJ-650TLで72kgのキハダマグロを釣ったすごい男がいる。マリニジェット後部のちょうどシートの下あたりにロッドホルダーを取り付け、右手にアクセル、左手にロッドというウルトラCのスタイルで、45分のファイトを続けたそうだ。

この男のことを単なる物好きと言ってはならない。そもそも「より魚と対等の立場で」というのがスポーツフィッシングの精神ならば、ボートだって、より小型で低馬力であるべきなのではないか。それにナンタツテ面白そうだ。



ちなみに、あのカーデザイナー、由良拓也氏も愛艇マリニジェットでスポーツフィッシングにチャレンジし(しかも国内で)、見事シイラを釣り上げたという輝かしい実績を持っている。



トンガ発

大人ばかり楽しむ時代はもう終わり
子連れで楽しめるイベントを

トンガでもスポーツフィッシングが人気だが、ヤマハの代理店、E・M・ジョーンズでは「ヤマハフィッシングトーナメント」というイベントの中で子供だけのカテゴリーを設置、それが人気を博している。大人が競技に夢中で沖に出ている間、子供も浅瀬で負けじと釣るもの。賞品が豊富なものこのトーナメントの人気のもだが、美しい自然の中で、家族ぐるみで楽しめるアイデアが大いにウケているそうだ。

USA発

ファミリーを対象に
陸上イベントを開催
これが人気大爆発

ボートトレーラー用としてビックアップアツプトラックが人気のUSTトヨタとUSヤマハが共同で行っているイベントが、「キャスタスターズ」。地面にレーンを作り、3段

階に分けた距離から特別に用意されたプラグをキャストしての当てるというもの。老若男女問わず、釣りの魅力を浸透させようと、既存のフィッシングトーナメントにジョイントする形で第一回大会を開催したところ、これが大ウケだったとか。第一回の参加者は女性と子供が中心で、夫や父親が沖に出ている間その家族が浜辺で大いに楽しんだ。女性部門で優勝したある女性は、夫に内緒で練習を積み、今大会にチャレンジ。見事夫の鼻をあかしたわけだが、もともとあまり釣りは興味なかったというこの女性、これからは夫と一緒に海に出る、と張り切っているそうだ。



SPECIAL REPORT

『ヤマハマリン全国販売店選抜大会』 に各地から250店の代表が参加

さる5月16日、静岡県掛川市のヤマハリゾート「つま恋」において、『ヤマハマリン全国販売店選抜大会』が開催されました。

本大会は、昨年10月より本年3月まで979店の参加を得て開催されていた販売店コンクール『チャレンジ・ザ・ゴール』において、基準を達成された323店のうち、250店の代表の方々にご出席頂いたもの。当日は、優秀店の表彰が行われたほか、'94年営業方針や政策の確認、講演会、懇親会を行い、ヤマハと販売店との、より親密なパートナーシップを築くとともに、さらなる飛躍を目指すことを確認し合いました。

なお、販売店コンクールの優秀店は次の通り。皆さまのご努力に感謝申し上げます。

全国販売店コンクール・優秀店

●プレジャー部門

和歌山マリンサービス/マリンショップ太陽/マリンショップ溝口

●業務部門

藤商会/山口マリンサービス/唐桑造船鉄工所

●MJ部門

サーカス/マリンショップ21/アウトドアショップ/サウスリート

●漁船部門

石巻マリンサービス/太浦鉄工所/小金丸造船所

●総合

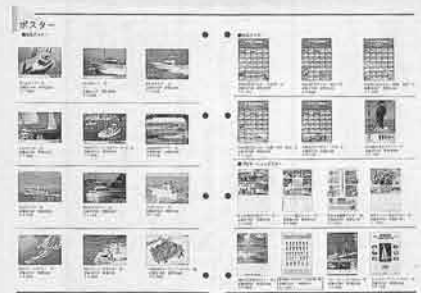
岬マリン/マックス/杉原商店



優秀店には、盾と、ハワイ旅行の副賞が贈られました

お知らせ

ポスターやチラシ、DMはもちろん、看板、ディスプレイツール、イベントツール、ノベルティグッズ、各種マニュアル、テキストなど。ヤマハでは、皆さまのご商売に欠かせないさまざまな販促ツールをご用意させて頂いていますが、このほど、それらをすべて網羅した小冊子、『ヤマハマリン'94ツールガイド』を制作いたしました。販促ツールを有効に活用するためにも、ぜひ御覧ください。



『ヤマハマリン'94ツールガイド』

●振替価格：¥200/1部

モノでオーナーの遊び心を刺激する。

いま売れてるヤマハのマリングッズ！

いろいろなグッズを見るだけでオーナーの遊び心は刺激されるもの(だと思う)。ここはひとつ、ボーディング・プラス・アルファをモノで提案して、オーナーの出航回数を増やしてしまえ！

海に出たのに泳がないテはない、で、手軽なスノーケリングをお薦めする。

★スノーケルプロ3点セット

スキューバプロのセカンド・ブランドだから信頼性は抜群。クルージング時の遊びに限らず、常備しておくとかかと役に立つ。

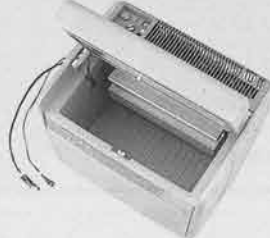


●カラー/ブルー、イエロー、ピンク、パープル
●サイズ/XS、S、M、L ●価格/¥16,000

夏の強烈な日差しの中、冷えたドリンクの美味さを啜る。

★ボックスクーラー

エレクトロラックス社製の3ウェイ方式の冷蔵庫。ホースノンガス！本で連続24時間運転。イタリアのカーデザイナー、ベルトネによるデザインがGOOD。



●サイズ/56.6×45.9×45.3mm ●消費電力/75W/h(AC100V, 0.75A)、75W/h(DC12V, 7A)
●価格/¥88,000

これ1台あれば遊びの発想も広がるというもの。

★ポータブル電源パワーテル太

コンパクトなボディで、デッキ上でも邪魔にならないポータブル電源。AC100Vの電気製品、自動車のDC100Vライタープラグを利用する機器に使用可能。

●重量/約7.6kg
●価格/¥41,800



●サイズ/342.5×185×184mm

渋滞でクタクタのオートキャンプを尻目に海で島で野外料理に凝る。

★R-COOKER

ガスカートリッジが使用できる3合炊きの炊飯器。使い方も簡単。



●炊き上がり時間/約30分
●ガス消費量/1回(3合)約24g
●価格/¥23,800

★IP-322Aジョイバレット

高出力ながら厚さ85mmという超薄型ツーバーナー。テーブルの上でも使用可能。



●出力/6000kcal/h(3000×2) ●価格/¥18,500

★GRIDDLE-1

グループ、ファミリー向き。フチの立ち上がりが高く食材がこぼれにくい設計。ツーバーナーの使用にも最適。



●サイズ/58×520×275mm ●価格/¥7,800

浜を訪ねて

長崎県

郷ノ浦

ノ

浦



地元仕様ニューモデルの誕生に 闘志満々でお仕事に取り組む

長崎県壱岐郡 小金丸造船所 小金丸吉正代表



4基の上架用のレールにそれぞれ2基ずつ台車が用意された小金丸造船所のドック。お客さまからの仕事の依頼は絶えることがない。



九州の北、東松浦半島から壱岐水道を経

て、玄界灘に浮かぶ島、壱岐。近海には良好な漁場を抱き、ブリ、イカ、タイの一本釣りや、潜水によるウニ、アワビ、サザエ漁などが盛んだ。

小金丸造船所さんは、明治時代から続く老舗で、島内で最も人口が多い郷ノ浦町にドックを持っている。代表の小金丸吉正さん（56歳）は四代目の棟梁だが、ヤマハ漁船の販売・修繕、修理に関わる業務を、こ郷ノ浦で一手に担い、ご商売を行っている。約600人と、いう郷ノ浦町漁協の組合員さんにとっては、なくてはならない存在なのだ。

その小金丸さんに、壱岐の漁船市場の流れをお聞きしてみた。

「この仕事を始めたころはまだほとんど木船で、私も船大工として漁船を造っていたんです。FRP船に代わり始めたのは17、18年前からで、以来、仕事も販売・修理に代わっていきました。戸惑いというのは無かったのですが、FRPの場合、補強の方法が違ったり、目に見えない場所が弱っていることがあるので気を遣いました。今でもヤマハの天草工場で研修してきた息子に教わることもあるんです」

しばらくの間、「船造り」から遠ざかっていた小金丸さんだが、このほど、ヤマハのスタッフと共に、壱岐仕様のドライブ船を



木船造りからFRP船の販売・修理へ。経験や技術もさることながら小金丸代表の誠実な仕事ぶりは、多くのユーザーから信頼を集めている

小金丸造船所

- 創 業……明治時代後期
- 従 業 員……3名
- 商 園……香岐郡郷ノ浦町
- 主力商品……YD-35香岐、DYシリーズ、他

一本釣り、ウニ・アワビ・サザエ漁を中心とする地元漁師さんから絶大な信頼を勝ち取っている小金丸さん。仕事の質が高いことはもちろんだが「ダメなこと、無理なことははっきり断りアドバイスする」という真摯な姿勢がお客さまからウケる理由か。ヤマハの営業担当氏によれば、小金丸さんの言うことなら漁師さんは何でも聞いてくれるのだそうだ。後継者にはご子息の正生さんがいる。近々郷ノ浦に県によるマリーナの建設が始まる予定だという。ご商売の方向性にも変化が出てくるのだろうが、若い正生さんの力が大いにものをいいそうだ。

香岐の船はスタイルが決め手!? 『YD-35香岐』の人気を探る

このほど開発されたドライブ船『YD-35香岐』の特徴は、何といてもそのスタイルにある。ミジップからバウにかけて、せり上がったシアラインは従来のヤマハドライブ船には無いものだった。そして低く抑えたブリッジ。写真を見て頂くとわかるが、中央のエンジンケーシングを活かし、コックピットは座敷の様になっており、一段下がった奥はヒーター付きの居住空間になっている。エンジンはD386KUH(230PS)を搭載し、約30ノットのスピード性能を確保した。同モデルの船主の一人、徳邑晃(とくむらひろし)さんによると、作業性やスピード性能もさることながら、「カッコよさが決め手」になったのだそうだ。また潜水漁の合間を縫って、沖合いでイカの流し釣りを営む徳邑さんにとっては、波叩きの

『YD-35香岐』の納艇準備に忙しい日々を送る小金丸さん親子。新艇の評判に、拡販への手応えを感じ取っている

少ない、安定感のある走りも気に入っているポイントのひとつだという。発売早々にして5隻の契約を得たという『YD-35香岐』。今後も香岐の潜水漁市場を席卷しそうだ。

郷ノ浦の沖合いを快走するYD-35香岐「徳丸」。スタイリングにこだわる香岐の漁師さんたちの注目を浴びている



エンジンケーシングの上に位置するコックピット。香岐の潜水漁の漁師さんはここに膝を着くようにして操船している



『徳丸』の船主、徳邑晃さんは、漁歴20年のベテラン。「スタイリング、スピード性能どれをとってもピカ。気持ちよく仕事ができる」と愛艇を褒める



郷ノ浦の港には各地からさまざまな漁船がやって来る。小金丸さんはそんな船を見るのが好きだという

開発するチャンスに出会った。

「前から潜水漁のお客さまたちの間で、船首が高く、中折れタイプのシアラインを持った船を」という要望があったんです」

そこで昨年の6月、天草で開かれた展示会にお客さまと出かけ、有明のノリ養殖船、DW-45Dを目にした。

「この船の中央を切って、そのまま短くした船型でいいのではないかと、言う声がありました。工場の方はさすがにそれはできないと言ったことで、本格的な新艇の開発が始まりました」

地元の漁師さん、長年にわたって市場を見てきた小金丸さんの声が充分に取り入れられた『YD-35香岐』の1号艇は、こうして昨年の12月に進水した。実際に船を造ったわけではないが、「開発に関わっただけに他の船とは違った愛着がある」と小金丸さんはご満悦の様子。船を一隻造り出すのと変わらぬ達成感、満足感を持たれたようだ。

仕事も船も大好き、と言う小金丸さん。朝7時ころから夜遅くまでドックにこもって仕事をこなす。冬からこの春にかけてはYD-35の相継ぐ納艇に追われ、休む間も無かったという。

「昔から船そのものが好きなんです。この港(郷ノ浦)にはいろいろなところから漁船がやって来ます。そうした時は必ず見に行きます。機装の方法など参考になるんですよ。腕のいい船大工を経た、根っからの職人でありながら船に対する興味と研究心は忘れられない。多くの漁師さんから絶大な信頼を得ている背景には、そんな小金丸さんの姿勢があるのだろう。」

その日のうちに絶対、修理を終える！ それがうちのモットーです。

北海道・道東の厚岸は、太平洋に面した天然の良港厚岸湾や、塩水の厚岸湖があつて古くから漁業が盛んな町です。町名の語源はアイヌ語で「カキの多い所」の意だという説もあり、厚岸湾の養殖カキは町の名産になっています。

「昔はカキ礁が何十もあつて、歩いて向う岸へ渡れたよ。今でも、棚に吊るさず、地撒きでカキ養殖しているのは、ここくらいだろう」と自慢するのは、和船・船外機を中心にして86年からご商売を続けている(有)ミナトモーターの宗石征幸社長です。漁師さんの出身だけに、痒い所に手の届く機装や修理・サービスがユーザーに好評で、お客さまが口コミで着実に増えているお店です。

宗石社長は経営と機装の仕事中心です。代ってサービスに責任を持っているのが常務の岩井隆さん(31)。そして社長の公子息の拓也さん(27)・哲也さん(24)兄弟でガッチリとチームを組んで岩井さんを支えています。

当世サービスマン



人物図鑑 ④

北海道厚岸町・ミナトモーター

(左から) 岩井 隆さん(31)
宗石 拓也さん(27)
哲也さん(24)

「コンブ漁の始まる直前が、とにかく忙しいですね。解禁の6月初旬が近づくと緊張しますよ」と岩井さん。サービス依頼の電話がひっきりなしに鳴る状態になるのだそうです。そんな戦場のような日々が10月初旬まで続きます。

厚岸周辺の漁業はこのコンブ漁が中心で、景勝の地、大黒島近くに設けたスタートラインを600隻ものフネが朝5時に一斉スタートし、良い場所は早いもの勝ちという取決めになっています。二日で20万円を超える水揚げですから、

漁師さんは必死。こちらにも、依頼された修理はその日のうちに必ず終えるという意気込みで対応しています」と拓也さん。「前の日に試走して動いたのに、出漁前になって動かないという電話が、朝の4時半頃、かかってくるんです。漁師さんもあせっているんですネ。港へ飛んで行って、腰まで海に浸って船へ行き、懐中電灯で照らしながら修理していると、船酔いして吐くときも……」と哲也さん。

この徹底したサービスマンシッポが、特別にセールスをしなくても、顧客が増えていく秘訣になっています。修理が終わるまでの貸出し用船外機を用意しているのは当然として(20台という多さです)貸出し用和船まで二隻確保しているところにも、ミナトモーターさんのお客さまからの信頼の高さがしのべられます。

3人にとってサービスマンとしての喜びを感じるのは、やはり、動かなかったエンジンが快い音とともに回り始めたとき。「これを知ったら、もう病みつきです」と声が揃います。そして、メカニックとしては4サイクル50馬力の新しい船外機に興味津津です。ユーザーからの質問もよく受けるとのこと。ただし、「燃費を気にする方にはケロシン船外機をおすすめしています」とのことでした。このあたりにも、技術で売るミナトモーターさんの自信のほどがうかがえました。

3 ガソリンエンジンのキャブレター

●概要

ガソリンエンジンの燃料装置は、エンジンが必要とする適切な混合気を供給するもので、燃料を蓄えておくフュエルタンク、燃料中に混合している水やゴミを取り除くフュエルフィルター、燃料をキャブレターに送るフュエルポンプ、燃料を微粒化して空気と混合させてシリンダに供給するキャブレター、そして各部を連結しているフュエルパイプなどで構成されています。今回はこのうち、キャブレターの構造と機能について説明します。

キャブレターは燃料を微粒化し、空気と混合させて酸化しやすい状態にするとともに、エンジンの運転状態に応じて適切な混合気を作るためのものです。原理は霧吹きとほぼ同じで、〈図-1〉のように、Aから入る空気をベンチュリで絞って流れを速くし、その部分に霧吹きのようなノズルを設けて燃料を吸い出しています。

キャブレターはエンジンの運転状態に対して適応する混合気を作るために、ベンチュリの構造や通風方向、バレルの数及び作動の相違によって種々の形式に分けられます。

ここではシングルバレルキャブレター〈図-2〉を例に話を進めます。

●フロート系統

フロート系統はフュエルタンクから送られてきた燃料を、常に定められた油面の高さに保つためのものです。油面の高さが変化すると、ベンチュリを流れる空気の流速が同じでも、メインノズルなどから吸い出される燃料の量が変化するので混合比が変化してしまいます。

構造は〈図-2〉に示すようにフロート、フロートチャンバ、ニードルバルブおよびエアベントチューブなどで構成されています。

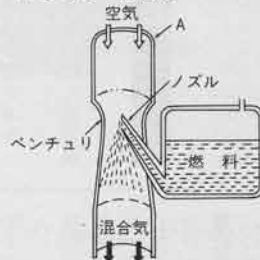
フロート油面の高さの制御は次のように行われます。

タンクからフュエルポンプで送られる燃料は、フロートチャンバ内の油面が低い場合にはニードルバルブを通して流入し、一定油面に達するとフロートの浮力でニードルバルブが閉じられて燃料の流入は止まります。燃料が消費され始めるとフロートはわずかに下がってニードルバルブが開き、燃料が補給されます。

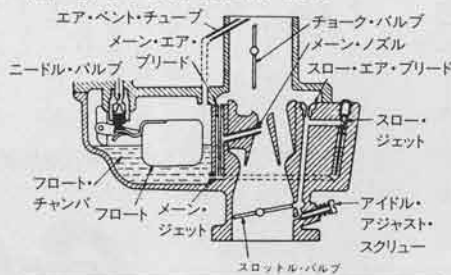
●スロー系統

エンジンの回転速度が遅い時はベンチュリを通過する空気の流速が遅く、またメインノズル先端がフロートチャンバの油面より高いので、メインノズルから燃料を吸い出すことができません。スロー系統はこのように時に燃料を供給するためのもので、スロージェット、スローエアブリード、アイドルポート、スローポート、アイドルアジャストスクリューな

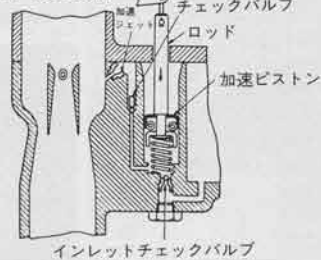
〈図-1〉キャブレターの原理



〈図-2〉シングルバレルキャブレター



〈図-3〉加速系統



どで構成されています。

アイドルポートはメインノズルやスローポートから燃料が供給されないアイドルリング時に燃料を供給するもので、アイドルアジャストスクリューはその微調整を行います。

スローポートはスロットルバルブが開き始めた時に、アイドルポートとともに燃料を供給し、メインノズルから燃料が十分に噴出するまでのエンジン回転を円滑にするためのものです。

●メイン系統

走行時における燃料供給を担うのがメイン系統です。メイン系統における燃料の流量を計量して規制するためのメインジェット、燃料の微粒化を促進するため燃料に空気を混合させて泡状にするメインエアブリード、燃料をベンチュリに供給するメインノズル、そして空気の通路を絞ることで流速を速くし、負圧を発生させるベンチュリなどで構成されています。

●パワー系統

一般にメインジェットの口径は経済混合比を保つような大きさなので、高出力時に要求される濃い混合気を供給することができません。このような時に補足の燃料を供給するのがパワー系統です。

パワー系統の燃料通路に設けられたパワーバルブが開くとこの系統が作動しますが、その開閉方法によって、バルブの開閉をスロットルバルブに連動するリンク機構で行う機械式と、インレットマニホールド内の負圧を利用する負圧式に分けられます。

●加速系統

スロットルバルブを急激に開いた場合に、一時的に混合気が薄くなるのを防ぐのが加速系統です。その構造は〈図-3〉のように加速ピストン、チェックバルブ、加速ジェット、及びリンク機構などで構成されています。

加速ポンプのリンク機構はスロットルレバーを急激にフルスロットル方向へ動かした場合、スロットルレバーが抵抗を受けないようにスプリングを介して加速ピストンを作動させる構造となっています。

リンク機構はスロットルバルブとピストンを連動させるもので、ポンプレバーとコネクティングロッドの挿入位置を変えることによってピストンのストロークを変え、加速時の燃料流量を増減できます。

●始動機構

始動機構は寒冷時のエンジン始動を容易にするもので、キャブレター内に独立した機構を設けたものと、ベンチュリ上部に設けたものがあります。前者はスターター式と呼ばれるもので、始動専用の系統を持ち、スタータープランジャー、スタータージェット、スターターエア通路などで構成されています。一方、後者はチョーク式と呼ばれ、チョークバルブ、スプリング、レバーなどで構成されています。

【主要諸元】 ●全長/7.93m ●全幅/2.30m
●全深さ/1.03m ●総トン数/2.0t
●完成重量/1400kg ●定員/10名
●航行区域/限定沿海
●最大出力/110ps (D202KH)
82ps (D201KH)



NEW MODEL

釣りファンにとって充実のモデルチェンジ
需要拡大キャンペーンも実施中！「YD-26NEW」

堅調な売れゆきをみせるフィッシングボートですが、最近ではユーザーのディーゼルエンジン志向が高まり、釣りレジャー市場でもその需要は好調です。
そこで、ヤマハでは釣りマニア向けボートとして「YD-26NEW」を発売しました。
スタイリッシュなシアラインとブリッジ。幅広船体とイメージの一新をはかると共に、さらに釣り機能を徹底追求しました。
また、発売と同時に積極的な全国キャンペーンも展開。カタログ、ミニポスター、DMハガキなどのSPツールも各種ご用意しておりますので、代替促進、新規客の獲得にお役

立ててください。

【主な特徴】

- ▼風雨がしのげ、大型物入れとしても利用できるハードトップタイプブリッジを搭載。
- ▼風流れ、オモテ振られの少ない船体特性向上。
- ▼チェーン幅の拡大による静止安定性向上。
- ▼船首V角度をやや強めにし、凌波性、耐航性が向上。
- ▼幅広船体による余裕のデッキスペース。アフトデッキにはイクスを2間設置。
- ▼機装しやすいオープンガンネル(サイド)。
- ▼扱い易くレイアウトされた航海機器設置スペース。

CAMPAIGN

実質年利4.9%
低金利キャンペーン

「ヤマハボート
低金利クレジット
キャンペーン」

5月末日まで展開した「低金利クレジットキャンペーン」ですが、このほどご好評にお応えして、実施期間を7月末日までと、延長いたしました。
引き続き、店頭等でお客さまにお知らせし、積極的な展開をお願いします。

CAMPAIGN

おかげさまでヤマハ漁船製造30周年
「GOGO30キャンペーン」を実施

ヤマハ漁船30周年のパワーを見て欲しい。



日本の漁業を支えてきたヤマハの漁船。昭和40年に、我が国初のFRP製漁船を開発して以来、今年5月で満30年を迎えました。技術の進歩と共に、モデルチェンジはされてきたものの、海を、船を愛する気持ちは今も変わりはありません。
そこでヤマハでは「記念クイズ」及び「マリンスイヤー」等を盛り込んだ、ヤマハ漁船30周年記念GOGO30キャンペーンを実施します。ヤマハ漁船の歴史・技術力を理解していただくためにも、お客さまとの話題づくりのためにも、ぜひキャンペーンにご参加ください。

●記念クイズ

【内容】クイズは30周年にちなんだものとし、正解者には抽選で賞品を用意。
【応募期間】平成6年5月1日～11月30日
【対象】漁船ユーザー及び、販売店、漁船店、漁業関係者を対象。
【告知方法】ツール(ポスター、チラシ、DMハガキ)

【応募方法】官製ハガキ、または専用のクイズ解答用ハガキに記入し、拠点・販路備え付けの投函箱に応募するか、直接郵送していただく。
【賞品】「GOGO30」キャンペーンロゴマーク入りオリジナル懐中時計(価格¥6,000)を抽選で30名にオリジナルテレフォンカードを300名にプレゼント。

【抽選】12月(九州で開催予定のマリンスイヤー会場にて)

●マリンスイヤー日程

タイトル	主催販社	場所	日程
ヤマハ西日本マリンスイヤー in 八代	九州熊本	マリン九州八代工場	H 6.6 / 10(金)、11(土)、12(日)
“漁船発売30周年記念”ヤマハマリンスイヤー in 志度	四国中国関西	ヤマハ志度	H 6.6 / 17(金)、18(土)、19(日)
“漁船発売30周年記念”ヤマハマリンスイヤー in 蒲郡	中部東京	ヤマハ蒲郡	H 6.7 / 22(金)、23(土)、24(日)

●その他キャンペーン
「GOGO30」大漁キャラバンカー
「GOGO30」オリジナル成約記念品
「GOGO30」漁船店コンクール

本格的MJシーズンに
拡販の追い込みを
「マリンスイヤー」
ユーザー渡りコンクール」
7月末日まで実施中！

ヤマハマリンスイヤークラブ加盟店の皆さまにはすでにご案内の通り、ヤマハでは、ただ今「マリンスイヤーユーザー渡りコンクール」を実施しています。
94年、本格的なマリンスイヤーシーズンを迎えた今、実販の最後の追い込みを弾みをつけるためにも、コンクールに参加された販売店の皆さまはぜひ主旨をご理解の上、一層の拡販をお願いいたします。
●コンクールの内容
昨シーズンのユーザー渡りの台数をベースとし、対前年比率をポイントとしてカウント、ポイント取得上位販売店を、IJSB Aワールドファイナルの運営視察勉強会に派遣・全国レベル/一位(2名様)、2位、3位(1名様)
●販売会社別/一位(各販社より全国レベルの1、2、3位を除く)1名様※地区によって異なる場合がございます

●参加条件
・MJCおよびPWSA加盟店
・整備資格取得店(本年12月までに取得予定のあること)
・期間中、MJ1650T(W)の仕入れ、またはユーザー渡りが最低1台あること

●昨年5～7月のユーザー渡り実績が5台以上あること(昨年5台以下の場合には昨年実績5台の計算方法にて受け付けます)
※「マリンスイヤーユーザー渡りコンクール」に関する詳細は、各販売会社、及び担当セールスにお問い合わせください。

揚艇・運搬・格納に1台3役
マリナーのニーズに100%応える
「自走式揚艇機」

世界中から選りすぐりのマリナー
機器をお届けしているヤマハでは、
マリン・トラベリフト社の「自走式
揚艇機」を発売しています。
このBFMモデルは、揚艇スピー
ド、安定性、作業能率が高く、マリ
ーナ運営の経済効率もグンとアッ
プ。これまで日本のマリナーがかか
えてきた様々な問題を解決します。



トラベリフト 35BFM
●能力・吊さ能力/31.7t
●希望小売価格/4,600万円

マリナー経営者の方に、ヤマハが自
信をもってお勧めできる製品です。

「主な特徴」

- ▼マリナー内の限られたスペースで
も、0回転ステアリングでスムー
ズに運搬。
- ▼操作はオペレーターの手元にある
レバーひとつでOK。労働コスト
削減が可能。
- ▼環境に優しく、景観を損うことも
ありません。
- ▼積み替え作業などで、ボートを傷
つける心配も不要。
- ▼問い合わせ/ヤマハ発動機株
海洋普及室マリナー機材担当
☎053(594)6521

アメリカズカップ
チャレンジャーたちの
熱い想いを伝えたい……
「NCACコレクシオン」



●写真はNCACウインドコート

世界で最も権威のあるヨットレー
スと言われる「アメリカズ・カップ」。
1995年の第29回大会に向け、ニ
ッポンチャレンジャーの新たな挑戦はす
でにスタートを切っています。
ヤマハは今大会もオフィシャルス
ポンサーとしてサポートすると共に、
ポータービルダーとして、最新のハイ

品名	価格	カラー	サイズ
CA2001 NCACウインドコート	¥23,800	A.ネイビー B.レッド C.コバルトブルー	M、L
CA2002 NCACウインドブレーカー	¥17,800	A.ネイビー B.レッド C.コバルトブルー	M、L
CA2003 NCACポロシャツ	¥6,800	A.ホワイ B.ネイビー C.グレー	M、L
CA2004 NCACTシャツ	¥2,800	A.ホワイ B.ネイビー C.グレー	フリー
CA2005 NCACTシャツ	¥2,800	A.ホワイ B.ネイビー C.グレー	フリー

テク技術を駆使し、挑戦艇（ヘニッポ
ン）を建造しました。
そのヤマハのチャレンジスピリット
を再現したマリンウェア「NCAC
コレクシオン」。
アメリカ杯獲得という壮大な夢を
お客さまと共有したいものです。

愛艇のメンテナンス時に
「ニューマリンメカニックスーツ」

ヤマハでは、マリンメカニックス
ーツ「MM000」を新発売しま
した。
特殊素材を使用し、洗濯による縮
み、シワの悩みを解消。表面は綿で
熱にも強く、芯はポリエステルで希
硫酸にも負けません。また、海上で
の作業を考えた両胸フアスナー、フ

ラップ付きポケット。脇下のプリン
ト生地や、背上部のワンポイントプ
リントでマリンらしさを強調してい
ます。
色はマリンブルー、バステルグリ
ーンの2色、サイズはS・M・L・
3Lと豊富にご用意。
お客さまの愛艇の整備にお勧めし
たい商品です。

問い合わせ/ヤマハ用品営業課



¥8,800
素材/ポリアヤン
(綿70% ポリエステル30%)

YAMAHA ON and OFF

マリン、そして、モーターサイクルの世界
が生み出すドラマを、ヤマハならではの感覚
でとらえたテレビ番組ON and OFF。今年も陸
の魅力、海の魅力を、大いに満喫する人々の
姿を通して、余すところなくお伝えしてい
きます。ご期待ください。

●テレビ東京、テレビ北海道、テレビ大阪、
テレビ愛知、テレビせとうち、ティー・エッ
クス・エヌ九州/毎週土曜日18時30分から18
時45分。静岡放送/毎週日曜日24時40分
から24時55分。東北放送/毎週木曜日24時45分
から25時00分。テレビ新広島/毎週木曜日24時
50分から25時05分。

TOPICS

春の浜名湖で熱戦を繰り広げた
将来のビッグセイラーたち

「第2回JMPF
ジュニアチャンピオンレガッタ」

JMPF(財団日本マリンスポーツ普及教育振興財団)は、1992年に設立以来、マリンスポーツを通じて、自然との協調性や豊かな人間性を育むこと、マリンスポーツが生涯スポーツとして国民的に普及することを目指して、様々な活動を行ってきました。

そのJMPFが主催となる少年少女のためのヨットレースイベント「第2回JMPFジュニアチャンピオンレガッタ」が、春休み期間の3月26日(土)〜28日(月)に静岡県ヤマハリナ浜名湖で開催されました。全国32クラブ、137名の選手が参加し、マリンスポーツ普及の手応えを感じさせました。大会は、ミニホッパー級とシーホッパー級SRの2クラスに分かれて行なわれ、全体

ヤマハマリンアカデミー
第8期('94年9月までの)の開講スケジュール

「マリンアカデミーの第8期開講スケジュールをお知らせします。

●お問い合わせは、担当販売会社まで。また、6名以上でのお申し込みは、スケジュール等ご相談に応じます。

講座名	日程
エンジン講座Ⅰ	6/16~18
エンジン講座Ⅱ	8/25~27
航海講座Ⅰ	6/21~24
航海講座Ⅱ	7/14~16
ヨット講座Ⅰ	5/30~6/1
ヨット講座Ⅱ	6/2~4
スポーツフィッシング講座	8/4~5 9/9~10
商品概要講座	※第8期は修了しました。

募集対象者…マリンプラザ、マリンショップ、サービスショップ、サービス指定店、ヤマハ販売会社のマリン営業マン、マリンサービスマン及びマリンパーソン

開催場所…ヤマハ発動機株式会社・研修会館
静岡県磐田市新貝2500 ☎(0538)35-9711
●ヤマハリナーナ浜名湖
静岡県湖西市入出字長者1380
☎(053)578-0713
●マリンアカデミー事務局
静岡県浜名郡新居町向島3380-67
☎(053)594-6518 FAX.(053)594-6510

マリンアカデミー修了者 (敬称略・順不同)

- 第7期
▶エンジン講座Ⅰ
櫻田稔(四国/瀬戸マリーナ)、石井文雄(東京/静岡メダモーターズ)、関本寿(東京/術長島鉄工所)、角野宗久(中国/岡山店)、山口学(中国/日生マリーナ)、水野雅文(中国/日生マリーナ)、落合健介(中部/榑ダイイチ河芸)、中家茂晴(関西/ナカヤママリーナ株)
- ▶エンジン講座Ⅱ
井上勉(関西/南マリンサービス)、角野雄一(中国/マリンショップ角野)、高木健司(中国/岡山店)、松倉嘉一郎(北海道/函館営業所)、落合健介(中部/榑ダイイチ河芸)、中家茂晴(関西/ナカヤママリーナ株)
- ▶航海講座Ⅰ
堀内達美(北海道/札幌営業所)、白野静一(北海道/札幌店)、角野宗久(中国/岡山店)
- ▶航海講座Ⅱ
小内山博光(北海道/函館マジマ)、手島巨史(関西/SC大阪)、杉田義則(関西/普及)、森岡章(四国/高松店)、相川充(東京/横浜店)
- ▶スポーツフィッシング講座
辻中隆彦(関西/神戸店)、合川宏(中部/浜松店)、松澤康弘(東京/横浜店)、山浦伸介(東京/横浜店)、松橋将孝(北海道/函館営業所)
- ▶ヨット講座Ⅱ
小林宏樹(関西/SC大阪)、松原良太(関西/京都店)、持田出(関西/関西中古C)、川越富士郎(中国/南マリン)、鷺坂ゆみ子
- 第8期
▶商品概要講座
岩倉武治(株わんわん)、大倉義広(株わんわん)、三井圭司(中部/榑ダイイチ)、舟戸浩紀(中部/榑ダイイチ)、藤井茂典(中部/榑ダイイチ)、前田真吾(九州/榑ヤマハ長崎)
- ▶エンジン講座Ⅰ
三井圭司(中部/榑ダイイチ)、舟戸浩紀(中部/榑ダイイチ)、服部克弥(中部/榑ダイイチ)、後藤秀樹(関西/南和歌山マリンサービス)、池田晃太(池田マリン)



的にハードなウィンドコンディションの中、各選手とも十分に実力を発揮、充実した大会となりました。

「第2回JMPFジュニアチャンピオンレガッタ」が、春休み期間の3月26日(土)〜28日(月)に静岡県ヤマハリナーナ浜名湖で開催されました。全国32クラブ、137名の選手が参加し、マリンスポーツ普及の手応えを感じさせました。大会は、ミニホッパー級とシーホッパー級SRの2クラスに分かれて行なわれ、全体

「第2回JMPFジュニアチャンピオンレガッタ」

3月19日(土)〜21日(月)に(瀬戸内海放送主催の「KSBフロッティンクポートショーin高松」が、ピアマ



今回のイベント担当者の一人である高松市のマリンプラザヘッラーズの平尾正之氏は、「棧橋を有効利用したフロッティンクポートショーをやりたかった。船のスケールをよく表わしているし、特に受付レイアウトや試乗時間のタイミングを工夫した」とコメントしていました。

EVENT

今年のヨットウィークは
20周年記念大会
この機会にYSA更新・
入会手続きの促進を



ヤマハディングー10クラスのユーザーで構成されるYSA(ヤマハセーリング協会)は、全国各地で開催される数々のレースやイベントを中心に活動を続けており、そのメンバーは仲間との交流を深めると共に、セーリングライフを大いに満喫しています。中でも、年に一度の全国大会となる「ヤマハヨットウィーク」は、今年で20周年を迎え、新たな企画のもと行われる予定です。

現在、更新・入会手続きをされた方には、会員証、艇登録ステッカーの他に、「ヤマハヨットウィーク20周年記念ステッカー」をもれなく差し上げています。

ディングーユーザーにぜひお知らせください。

南半球から赤道を越え大阪へ「メルボルン/大阪」YAMAHA CUP ダブルハンドヨットレース 1995

4年おきに開催されているこの大会も次回で3回目を迎えます。無寄港、しかもダブルハンドによる太平洋縦断レースということで、世界中のヨットマンから注目されています。

今回のスタートは1995年3月25日。エントリー受付の締切は、今年の10月30日となっています。

■問い合わせ/財団日本外洋帆走協会 ☎03(35504)1991

海で、マリナーで、ショップで、お客さまに教えてあげたい、海のうんちく。

汚れた海を光でカモフラージュ。 夜光虫って、都会のネオンみたいだ。



ずいぶんと昔、今ではダイビングのメッカとなった伊豆半島の大瀬での初夏のことです。学生たちの卒業研究で、一日の調査も終了。午後遅い時刻に浜辺でくつろいでいました。波打ち際には夜光虫が吹き寄せられて薄いピンクの膜を作っています。そのうちに悪ふざけが始まり一人を海に投げ込んだのです。手足を広げた恰好で水しぶきを上げ、海から上がった学生は口先では怒っていましたが楽しそうでした。ふと、暗くなれば水しぶきが美しく光ると思いつき「青く光った人間型の水しぶきが見たい」と言ったのですがそこまでは聞き届けてくれません。我ながら良いアイデアだと思ったのですが。

●

変な思い出から話が始めましたが、夜光虫は春から夏にかけて広く沿岸で見られる現象です。ヤコウチュウと言うプランクトンが発生して、大量に発生すると海を薄赤色に染めるほどになり、赤潮と呼ばれます。海水の温度が上がり、雨が降って川の水が陸地の栄

養分を運び込み、その後の晴れ間の陽射しがプランクトンの発生を促します。これらの条件がそろえば春から夏にかけて赤潮の発生がしばしば見られるのです。ですから、きれいな海では赤潮は発生しにくく、沿岸の人口が増えて汚染が進むと頻繁になります。赤潮は海水の汚れの指標とも言えるでしょうか。

ナイトクルージングなどでその赤潮の中を通り過ぎると船の曳き波が青く光ります。月も出ていない夜には輝くように明るく見えます。ナイトダイビングの経験者は海面で光の波に全身を包まれたこともあるでしょう。夜光虫はほとんど水面近くに浮遊し、刺激を受けると光ります。実際には陸の明りが海に落ちるようなところでは気が付く人もいないほど暗い発光なのですが、暗闇に馴れた眼には十分に輝いて見えます。巷間にまたたくネオンに眼を奪われていないでたまには夜の海に出てみるのも良いものです。

なぜヤコウチュウに限らず発光する生物がいるのでしょうか。ホタルが光るのは仲間を呼ぶ

信号です。その発光パターンを真似て間違っ

て寄って来たホタルを餌にする種類もいます。発光生物は陸より海に種類が多く、細菌から魚類まで含まれます。発光は化学反応なので海水の中のほうが都合が良いのでしょう。発光生物には自分自身が発光物質を作り出すものと、発光細菌などを共生させて発光するものがあります。生物発光は化学反応で、無駄に熱を発生しない非常に効率の良い冷光です。

など光のない所です。例を挙げてみましょう。有名な深海魚のチョウチンアンコウは全身真っ黒です。口の上にはハタキのような房が付いています。その房を発光させ、誘われて近づいて来た小魚を呑み込みます。夜釣りに夜光をつけるのと同じ手口です。

暖かい海に住むヒカリキンメダイは眼の下に大きな明るい発光器を持っています。発光器の裏側は黒く、光を通しません。群れて泳ぎながら発光器を裏返して光を点滅させるのです。艦船が近距離の信号にライトを点滅させてモールス信号を送るのと同じ仕組みでしょうか。水族館でしか見たことがありませんが、暗い水槽の中を光の群れが発光器を明滅させながら一斉に動き回るシーンは壮観です。

もう一つ例を。潜水中に海底から見上げると海面に浮いているボートや中層を泳ぐ魚はシルエットになってくっきりと目立ちます。ヒイラギと言う魚は腹部全体をうすすらと発光させて、外敵に下から見上げられても海面の明るさとまぎれるのです。地表に住んでいる我々には理解しにくいけれど立体の世界に住む彼等には重要な技です。

夜光虫が光るのは何のためでしょうか。もしかして夜の海をロマンチックにするため、それとも汚れた海をごまかすカモフラージュかしらん。海って不思議。



「どこにも負けない アフターサービス」で 顧客の信頼をガッチリつかむ。

昭和54年に創業し、2年前に店舗を移転、昨年10月からは株式会社として新たなスタートを切った共栄マリン(株)さん。創業以来、「どこにも負けないアフターサービス」を心がけ、顧客の満足度を徹底的に上げてきた甲斐あって、同社は今、確実な伸長を遂げている。今回は宮崎市から北へ90キロ、人口13万人の街、延岡市に、その共栄マリンさんをお訪ねした。

**客足を増やした新店舗は
サービス工場に重点を置いた設計**
富山昭夫社長が脱サラし、建築関係の会社を設立したのは昭和47年のことだ。その数年後、富山社長は社内にマリン部門を設立し、

共栄マリンとしてプレジャーボート、漁船の販売を手がけてきた。県による道路の拡張計画に伴い、旧店舗から移転したのが2年前。これまで「同居」していた建築関係の会社とは別に、新社屋を完成させている。昨年の10月には、「共栄マリン株式会社」として、組織

も独立させた。

「パブルでそれほどいい思いをしなかった分、その後悪くもなかった。毎年、堅調に売り上げを伸ばしている」と富山社長はいう。特に今はUF、FGを中心とした1000万円クラスのフィッシングボートへの代替え需要が伸びているのだそうだ。そして「創業以来、常に高いレベルのアフターサービスを目指してきた。いいサービスをすればお客さまはついてくるし、紹介客も増えてくる」と、その好調さを分析する。

新しくなった店舗は、同社の「サービス重視」という姿勢がよく現れている。約528平米の敷地に建坪298・8平米の社屋。事

務所に並んで、よく整理された広いサービス工場を備えている。

「新しい店を造る際、九州のあちこちのお店を見て回り、どの様なお店にしようかと考えました。サービス工場についてはヤマハマリンサービスが推奨するサービス工場のモデ



共栄マリンサービスさんのサービス工場はヤマハマリンサービスのモデル工場をほぼ活かして新築したという



新ショップになってからは特に客足が増えたという



- 創業……昭和57年
- 従業員数……5名
- 商圏……延岡市の他、北浦、日向など
- 管理顧客数……約500名
- 主力商品……UFシリーズ、FGシリーズ

アフターサービスの良さが定評の共栄マリンサービスの皆さん。ヤマハマリンサービス整備士資格の取得など、スキルアップにも積極的だ



『所変われば船変わる』は
漁船だけではない
客の好みに合わせた艤装が好評

「第一のセールスポイントはお客さまの好み

ルを活かして造ってみたくです」
その使い易い工場に、同社は約200万円をかけて井戸を掘り、地下水を引いている。一度塩水に浸かったエンジンでも、この水に塩抜き剤を入れて洗えばもう錆びない。普通の水道水だどこまではいかない、という。

富山常務の実家は県北部でヤマハ漁船を取り扱う島野浦造船さんだ。「小さなころから船を見てきた」という常務はFRPはもちろんステンレスの加工まで高いレベルでこなすことができる。

に応じた艤装ができることですかね。例えばオーニングやハンドレール、航海灯、アーチなど。純正のオプションでは飽き足りないというお客さまに対して、100%以上満足して頂ける商品を用意することを心がけています」

事務所の2階は免許教室に。受講生は増加中。そのほか同社ではダイビングスクールを開催。スタッフ全員インストラクターの資格を持っているという



メイン市場の浦城を富山社長に案内して頂いた。同社ではここをベースに活動する遊漁船クラブをサポートしているが、そのクラブの働きかけもあって、近々湾内のプレジャーボートの係船施設が整備されることになっている



同社のマリンビジネスの次代を担う富山常務。営業に、サービスにと、忙しい日々を送る



このほど新たに購入して確保した650坪の土地には現在中古艇が保管されている。今後展示会の会場として利用するほか、新たにサービス工場を建て、より一層の万全なサービス体制を目指すという

「何でもやるんですよ、うちは。これじゃあ、船の便利屋だ、なんて思うこともあるけれど、そこから商売が生まれていることも事実です」
サービスの場面で特に気をつけていることは……？
「取り替えた部品や修理箇所をお客さまに見せてあげること。言われた仕事だけでなく、故障発生につながりそうなところを知らせてあげるなど会話を直接することなどですね。スタッフどうしのミーティングは毎日行い、作業上の問題は早めに解決してスタッフ全員のレベルアップを心がけています」
共栄マリンさんの顧客は約5000名。ほとんどのお客さまはショップから車で約30分程北に行った浦城という港に係留されている。

海から離れた立地条件に不利は感じないという富山社長。
「ほとんどのボートはユニック車でここまで運んできます。みんなにはなるべく人通りの多い道路を通って往復するように言っているんです。目立って、いい宣伝になるから。運搬できない大型艇については島野浦造船さんに揚げさせてもらっています」
確かなアフターサービスをベースにボート免許教室、クラブ活動のサポートなど、基本に忠実なご商売で確実に売り上げを伸ばす共栄マリンさんは、このほど第2のサービス工場と展示場用に約650坪の土地を確保。更なる飛躍に向けて準備万端というところだ。

HOT EYE

初参加・初優勝の夢に向け、
ホイットブレッド世界一周レース
最終第6レグをスタート



ついに第5レグでトップフィニッシュを飾った〈YAMAHA〉。惜敗が続いていただけに感激もひとしおだ

「思わず涙が出た」と小松一憲選手。残すは最終第6レグのみ。本誌が出るころには通算での優勝を目指しスタートを切っているはずだ



日本時間の4月25日未明、南米・ウルグアイからUSAのフォート・ローダールまでの第5レグを戦い、初のトップフィニッシュを飾った〈YAMAHA〉。通算のクラス首位を争っていた〈イントラム・ジャスティチア〉にも、このレグで約14時間の差をつけ圧勝、第1～5レグの通算所要時間でもついにトップに立ちました。フィニッシュラインを切った瞬間、空に向かってこぶしをつき上げたロス・フィールド艇長に見られるように、この勝利を誰よりも喜んだのは実際に艇を操ってきたクルーたち。小松選手も上陸後、「フィニッシュの時、クルーは皆泣いていた。私も涙が出た」と、勝利の感動を語っていました。

そして5月21日、〈YAMAHA〉はイギリスのサウサンプトンを目指し、最終第6レグのスタートを切りました。フィニッシュの予定は6月の上旬。初参加・初優勝の快挙はなるか！〈YAMAHA〉の走りから目が離せません。



第5レグのフィニッシュ地、フォート・ローダールでも熱い歓迎を受けた〈YAMAHA〉。全世界で、この壮大なレースへの関心が高まっている